

令和6年12月4日

四條畷市議会議長 森本 勉 様

総務建設常任委員会  
委員長 藤本 美佐子

### 総務建設常任委員会行政視察報告書

総務建設常任委員会行政視察について、下記のとおり報告いたします。

#### 記

1 日 程 : 令和6年11月13日（水）～14日（木）

2 視察先及び：1日目 11月13日（水）午後2時から午後4時まで  
視察項目 群馬県安中市「新序舎について」

2日目 11月14日（木）午前10時から午前11時30分まで  
群馬県高崎市「新町防災アリーナについて」

3 視察委員 : 委員長 藤本 美佐子  
副委員長 柳生 駿祐  
委員 坂本 勇基、島 弘一、吉田 涼子  
随行者 議会事務局 秋山 育美

4 行政視察報告書 別紙のとおり

## 令和6年度 総務建設常任委員会 行政視察報告書（1日目）

視察日時	令和6年11月13日（水）14時00分～16時00分
視察先	群馬県安中市
視察内容	新庁舎について
視察目的	現在本市で取り組んでいる事業のため、先進市からの事例を学ぶことにより、参考として本市へ持ち帰り、市民へのサービス向上をめざすものとする。
調査概要	<p>安中市の「安中市新庁舎建設事業」について説明を受け、その後質疑応答。</p> <p>安中市役所の本庁舎は、平成18年度に耐震改修促進法に基づき実施した耐震診断結果から、もし大地震が発生した場合には、耐震強度の不足から建物の倒壊または一部崩壊が懸念され大きな被害を受ける可能性が高いと予想されこの課題を踏まえ様々な検討を行い庁舎整備の方向性を定めた。</p> <p>新庁舎建設における方向性として、既存庁舎を活かした機能的で「シンプル・コンパクト」なSDGs型庁舎で新しいまちづくりの核となる庁舎建設を目指すこととなる。</p> <p>建設場所の概要としては、敷地面積12,700m<sup>2</sup>、用途地域は第二種住居地域、建ぺい率/容積率は60%/200%、前面道路による容積率制限は0.4。</p> <p>【スケジュール】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 2022年度→基本構想</li> <li>② 2022年度→基本計画</li> <li>③ 2022年度→基本設計</li> <li>④ 2023年度→実施設計</li> <li>⑤ 2024年度～2025年度→建設工事</li> <li>⑥ 2026年度→供用開始</li> </ol> <p>【財源】</p> <p>○基金：約23.8億円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎建設基金：約11.0億円</li> <li>・地域振興基金：約12.1億円</li> <li>・森林環境贈与税基金：約0.7億円</li> </ul> <p>○地方債</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併特例債（起債可能残額約30億円）</li> <li>・緊急防災・減災事業債</li> <li>・脱炭素事業債</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新庁舎への愛着の醸成と一層の財源の確保のために寄附を募集（ふるさと納税を活用）</li> </ul>

	<p>◆市民への周知方法として 住民説明会の開催（地元向け/市民全体向け）Youtube チャンネルでライブ配信。</p>
所感（意見・感想・今後の課題等）	<p>・市民へ意見を募るためパブコメや説明会など開催したようだが、人数も少なく感じた。これについて担当者は、Youtube でも配信されているがかなりの反対意見があったとのこと。根気よく丁寧な説明は必要と感じた。</p> <p>・建設場所の敷地面積の内、建設規模：刺繍的な延べ床面積は7, 397.93 m<sup>2</sup>で耐震構造。概算工事費としては本体約46. 1億円（解体工事費別途）となり、基本計画時より8. 3億円の増となっていた。資材、人件費、物価上昇など見込みが重要と感じた。</p> <p>・新庁舎に導入する機能は非常に参考となった。</p> <p>① 窓口機能として、第1に市民の利便性を考え、誰もが快適に安全に利用できるよう機能的な窓口環境の整備がなされバリアフリーやユニバーサルデザインを採用。可変性・拡張性のある窓口で案内表示、プライバシー保護に配慮した窓口を採用していました。</p> <p>② 行政事務機能として、関連深い部局を集約し、執務空間、会議室等、書庫、収納スペースを多くとられていました。</p> <p>③ 防災機能として、災害発生時関係機関と連携し円滑に情報の収集・共有・発信ができるようにBCP 対応への取り組み、災害対策本部機能の充実や機器の強化が図られておりました。</p> <p>④ 環境負荷低減機能として、環境負荷の低減を図り SDGs の理念や脱炭素等、環境に配慮した再生可能なエネルギーの利用や省エネ対策として群馬県産の木材の活用により市民に親しまれる施設となっていました。</p> <p>⑤ ユニバーサルデザインとして、シンプルな平面設計等ユニバーサルデザインを導入し、わかりやすさ、移動しやすさ、多様な利用者への配慮ができておりました。</p> <p>⑥ 議会機能としては、明るく開放的で気軽に足を運べるような動線になっており、議場を使用しない時期には、市民ホール等として活用できるような設計になっておりました。</p> <p>・照明はタスクアンビエントを採用、自然採光を取り入れる工夫や自然通風を促進するエコアイテムやエコボイドによる明るい執務室などは非常に参考になりました。</p> <p>・基本構想まで約3年、設計を約2年で仕上げており、早期の建設事業化を図ることができたのは、職員の力が大きいと感じました。前述の若手職員がワーキンググループに参加している点は、本市でも一部の部局では見受けられるものの、全庁的にはまだ進んでいないところがあります。もちろん設計業者による設計ではあるものの、どのような配置、セキュリティ面、市民利便性の向上は、現場の職員の声を最も活かすべきであり、この点は本市の実際の設計段階では参考にす</p>

べき点であります。

本市と人口規模が似ている中でも、新庁舎の建設には70数億円がかかる見込みであり、本市においては、使えるところは使う方針はあるものの、市庁舎に限らず、検討を加えるべきと考えます。

・新庁舎は今まさに建設の為に基礎杭をDJM工法と思しき削工と地盤改良剤の投入攪拌中だった。地質は関東ローム層で水捌けも良く地中杭も最深部6mと聞いた。用地確保と良質な地質のお陰が窺える。

市長が代わった事で大幅な計画変更が起きていた。わが市に被せるとすべてが変わってしまうことに驚きを感じた。

・財源には基金や地方債を活用し、その他で新庁舎への愛着の醸成と一層の財源の確保のために寄附を令和6年から令和7年末まで募集を行っているとお聞きしました。これは、ふるさと納税のように返礼品のかわりに、新庁舎に寄附をしていただいた企業、団体、個人のかたのお名前を銘板のようにして残す取り組みをされておられました。今月から始まったばかりでしたが、すでに申し込みがきていました。本市もこのような取り組みができるのではないかと思います。工事現場も見学させていただきましたが、構造形式を耐震構造と現時点では考えておられるそうですが、実際、岩盤掘削状況では免震構造になるかもわからぬとお聞きしました。本市でも、想定されることかもしれないと思いました。

・安中市では物価上昇時における市議会への説明においてはスケジュールと概算を明示することで混乱なく進めることができたとのことであった。同時に上昇する建設費を補う一環として「返礼品なきふるさと納税」として寄附を募り、寄附者には新庁舎に掲示予定の銘板に寄附者名を記載して顕彰するという取り組みをされた。さまざまな課題をクリアした安中市の新庁舎は令和7年度中の供用開始で工事が進められており、新庁舎の側道が通学路のため、特に近隣の市民からは工事車両の出入りによる交通事故の懸念が指摘されたが、安全運転はもとより、車両誘導警備員の拡充対応等で事故防止に努めているとのことであった。また、地盤工事を進める上では「揺れる」「ほこりがひどい」という苦情が散見されたものの、物理的な不可抗力事項については都度丁寧な説明を実施し、対策できる内容については都度改善内容を説明して理解いただいた上で改善に着手しているとのことだった。総括していえることは、しっかりと未来を見据えて細部にまでこだわり抜いた岩井市長の信念と熱量を優秀な全職員さんがしっかりと受け止めて、諦めずに力タチにしようとする努力と前向きな姿勢に感心させられるばかりだった。安中市民のみなさんが羨ましくも感じたが、今回得た有益な情報や教訓を四條畷市でも水平展開してゆくべきと改めて強く感じた。

## 令和6年度 総務建設常任委員会 行政視察報告書（2日目）

視察日時	令和6年11月14日（木）10時00分～11時30分
視察先	群馬県高崎市 新町防災アリーナ
視察内容	新町防災アリーナについて
視察目的	現在本市で取り組んでいる事業のため、先進市からの事例を学ぶことにより、参考として本市へ持ち帰り、市民へのサービス向上をめざすものとする。
調査概要	<p>高崎市新町にある「新町防災アリーナ」について説明を受け、その後防災アリーナを見学しながらその都度委員から質疑応答。</p> <p>防災アリーナは、体育施設に防災機能を備えた、全国でも類を見ない体育館である。</p> <p>最大の特徴は、体育館の外に設置されている屋上までの避難スロープである。</p> <p>大規模な水害などが起きた際、スロープを使い外庭から屋上の高所へ速やかに避難できる。</p> <p>屋上では、ヘリコプターの緊急離着陸場を設け、緊急時の救助活動が行える。</p> <p>① 延べ床面積→2,892.27m<sup>2</sup> (1階1,792.85m<sup>2</sup>/2階720.37m<sup>2</sup>/3階379.05m<sup>2</sup>)  ② アリーナ面積→1,147m<sup>2</sup>  ③ アリーナ天井高→7.8m  ④ ランニングコース→1周約130m  ⑤ 諸室/設備→1階：事務室、本部・放送室、器具庫、更衣室、多目的トイレ、トイレ（男：小3・大洋2・手洗い3 / 女：洋5・手洗い4）2階・3階：防災倉庫・エレベーター（13人乗り）  ⑥ 屋上避難場所→（一部や屋根付き）  ⑦ ヘリポート→（約20m×20m）最大荷重7t  ⑧ 避難スロープ→（幅1.6m屋上まで約300m）  ⑨ 駐車場→214台（うち身障者駐車6台）</p>
所感 (意見・感想・今後の課題等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新町防災アリーナは、主に水害を想定した施設となっており、緊急時には救助ヘリも離着陸することができ、近隣住人の安心できる施設であった。</li> <li>災害時には、周辺住民へ避難情報など速やかにお知らせできる防災スピーカーの設置がなされており、住民の安心に繋がっていると感じた。</li> <li>施設内には大型発電機があり、停電の際も空調・照明などの電気設備を最大3日間稼働させることができ、小型発電機では、携帯電話など充電できる設備が整っていた。</li> <li>炊き出し用かまどベンチや下水道に直結している組み立て式マンホールトイレを2階、屋上の避難場所に設置されており、防災拠点として市民の安心安全に寄与する素晴らしい施設でありました。</li> </ul> <p>本市の南中跡地に検討されている防災拠点を進める上の参考となりました。</p>

また、見学した際、実際に市民の方々が体育施設として利用されているのを拝見し四條畷市にも必要な施設と感じました。

・機能を限定的にしている点もあり、十分な防災施設というわけではありませんでした。一方で、機能を限定的にすることで、一時避難所とその他の避難所の利用区分を明確にしており、費用を低減する効果は一定あると考えます。

本市においても、市域全域で体育施設が少ないという市民の声は一定あり、今後の整備によって、大いに利用は見込むことはできる状況です。本市では、旧南中跡地は、浸水想定区域ではないため、同様の建設手法にはなりませんが、普段の利用実態に即した、かつ災害時に必要な機能を精査しながら設計を充実させが必要であると感じました。

一時避難ということでヘリポートはありましたか、本市ではこちらもまた必要ないかと感じました。一方で、ヘリコプターの重量によりヘリポートの大きさ、対応力が違う点はその他の施設において参考になる点でした。

・活火山の浅間山や妙義山が有るので、噴火した時は、火山弾が飛来すると思われるが、その対応は出来ていない。

重油燃料の発電機が複数台備えられていたが、1年間運転していないとの事。数カ月に一度はテスト運転をした方が良いとアドバイスする一コマもあった。

本市にも有効な防災アリーナであると感じた。

・新町地区は、大きな川2本の流れる水害に弱い地域とお聞きしました。なので、もし水害が発生した場合、こちらに避難するのが困難になることも想定内で、そのようなことが起こらない町としてのアピールのためにもこの施設が誕生したと伺いました。本市の多目的体育館の近くには土砂災害の発生度が高い地域となっていますが、それを払拭する施設との考え方必要であると感じました。

施設はもちろん新しく、体育館の利用料もかなりお安くなっていますので、視察をさせていただいた時間は、年配の方が多く利用されているのが印象的でした。

本市の体育館にもたくさんの方が集まる場所となるよう、防災機能もしっかり備えた施設となるよう取り組んでいきたいと思いました。

・新町防災アリーナは「一時避難」を想定して建設されており、長期の避難施設としては考えていないとの事だった。一時避難とはいえ、災害時の受入人数は2,000人を想定しているものの、備蓄品においては現時点で700人分に留まり、今後は受入人数分を確保する予定との事。その他、マンホール対応トイレントや段ボールベッドなどの衛生面の備えは充実しており、一時避難施設としては衛生面においても十分に機能すると感じた。また、停電時の電力供給については軽油で稼働する巨大発電機を屋内に備え、連続24時間(8時間/日の想定)の運転

が可能。しかし、発電機の話をうかがうと、現在タンクに入れている軽油がすでに1年を経過しており、入替は行っていないとのことで、一般的に半年の品質保証とされている軽油の物性を理解した上で、管理体制を見直す必要があると感じた。

同様に新町防災アリーナの建物に多くの窓ガラスが使われており、地震発生時は全てのガラスが割れる事が懸念されたため質問をした際「そこまで考えていないかった」とのこと、総工費約14億円を投じた事業の回答としては残念に思えた。大島館長が持たれている今後の課題として「医療体制の確立」を挙げられており、災害時における医師・看護師の派遣ルートが確保できていないことが大きな課題であり、その点においては本市においても重要なポイントであると再認識した。以上、「足りている点と不足している点」の双方を配慮すべき観点もあわせて学ぶことができた。今後、本市において防災関連事業や防災施設を検討するうえで、今回の視察内容をしっかりと水平展開させるよう努めていきたい。

## 視察の様子

1日目視察先

11月13日（水）  
群馬県安中市



安中市役所にて  
座学



安中市役所前にて

2日目視察先

11月14日（木）  
群馬県高崎市



アリーナ内見学  
発電機室



新町防災アリーナ  
前にて

